

蒲池山ため池

(かまちやまためいけ)



ため池全景



ため池近景

ため池の概要

ため池の所在地

福岡県みやま市

ため池の特徴

蒲池山ため池は、享保2年(1717年)柳河藩の水利土木「田尻惣馬」が述べ7万6千人の手を要して完成させたといわれています。

築造から290年余り経た現在も147haの農地を潤しており、稲作のみならず、周辺丘陵地で栽培される全国的に有名な「山川みかん」など、地域の農業に欠かせない存在となっています。

また、周辺を山々に囲まれた池は、自然豊かで季節にはホタルも乱舞します。

池のある山川地区には次のような言い伝えがあり、堤がどんなに長くても「九十九間(約200m)以上はない」と言うことになっています。

「ある年の夏、蒲池山の堤のそばの家に、一人のおじいさんが現れた。真っ白な長いひげと真っ白な着物、目つきの鋭いおじいさんで、家の主に『この堤の長さは百間あるか。深さはどれくらいか。』と聞いた。薄気味悪くなった主は『この堤は浅く、長さも九十九間で、とても百間はありません。』と、嘘を言った。

これを聞いたおじいさんは、がっかりした様子で、『九十九間か、それではとても住めない。』と言ってパッと姿を消した。その後大きな蛇が堤の中から現れ、ざわざわと草木を押し倒して山の方へ消えていった。実は白ひげのおじいさんこそ大蛇の化身だったのだ。」

関連情報